大学研究室紹介

キャンパスだより(39)

東京農業大学
植物病理学研究室

所在地：神奈川県厚木市鶴脇1757
Message from Laboratory of Plant Pathology, Department of Agriculture, Faculty of Agriculture, Tokyo University of Agriculture. By Hiroonshi Neoce (キーワード: キノコ細菌病, 植物病生微生物, 植物細菌病, そうが病, Plant Disease)

はじめに

東京農業大学は世田谷、新座（オホーツク）そして
厚木の3キャンパスに農学系の5つの学部を配置
している。そのうち厚木キャンパスは神奈川県中央部の厚
木市に位置し、東京農業大学創立以来伝統の農学部を
擁している。農学部には農学科と畜産学科、それに
ようやくこの2009年4月に成立年度を迎えたバイオセ
ラバイ学部の3学科が置かれ、東京近郊および東部
の進路からは一歩離れた経済で静かな環境に、約
3,000人以上の学生がキャンパスライフを満喫している。

近年、学部学科等の組織改編に伴い、昔ながらの農
学部や農学科の名称が消失つつある中、本学では「農」の
字を冠した学部名と学科名が依然として残さ
れている。東京農業大学自体の創設は1891（明治24
年）の帝室農業学科とされ、翌年に帝室農業大学科
設置、翌年には東京農業大学と改称、1897（明治30
年）には大日本農会附属東京農業大学となった。その後
1901（明治34年）年に大学農会附属東京高等農林学
校への改称を経て、1903（明治36年）年に専門学校令
による東京高等農林学校に認可され、1908（明治41
年）には私立東京高等農林学校を改称した。1911（明治44
年）に私立東京農業大学と改称し、1919（大正8年）に
は単に東京農業大学と呼称することとし、さらに
1925（大正14年）には財団法人東京農業大学が設立
されて、私立の農学系で初めての大学令による東京農
業大学が認可された。1946（昭和21年）には教育基
本法に基づく新制大学としての東京農業大学が認可さ
れ現在に至っている。

I 研究室の歩み

本学における植物病理学研究室の設立時期は実のと
ころあまり明確ではないが、その前身を1915（大正4
年）に三宅市郎氏を本学に迎えたこととされる。先ずく
もこの年は関係者が築いた日本植生病理学会発足を決定
した年であり、学会発足50周年記念式典はこの年を
創立年として挙げた。ちなみに会則の制定などはそ
の翌年（1916年）である。本研究室からの卒業生
は、本研究室のOB会である植相会（じゅぼうかい）
の名をとる。1916年卒業生の10名（徳川幸雄
氏）が最初で、1920年（昭和5年）卒業生の1名
（常盤幸雄）が次で、1929年（昭和4年）卒業生の1名
（鹿児島幸雄）が続く。2009年3月までの数は1,600
名近くに達し、植物病理学はもちろん農学や農業関連の分野
にとどまることなく、多くの面で広く有効
な人材を輩出してきた。この間の研究室教授は三宅市
郎、松浦秀治、向 勝夫、藤井 毅、亀村 直、丹田誠
之助、松龍宜宏の8氏を数え、最盛期には研究室内に
5名の教員を抱えてが、現在では渋谷一雄教授のもと数
岸秀夫教授と同様会津教授の3名体制となっている。なお、東京農業大学には本研究室以外に植物病理
学に関係する研究室が、世田谷キャンパスに2つ（熱帯
作物病理学研究室と電子顕微鏡室）とオホーツクキャン
パスに1つ（作物生産管理学研究室）あり、それぞれ
独自に活発かつ積極的に教育・研究活動を行っている。

II 研究室の概要と教育

現在の植物病理学研究室は博士後期課程学生1名、
博士前期課程学生7名、研究員3名、4年生26名、
3年生36名の累計104名を抱え、学生数76名と
いう大所帯である。私の大学の特徴として学生数が多
いのは当然とも言えるが、植物病理学の単独研究室で